

市制 20 周年記念

わたしたちの 修道地区



修道小学校

令和6年度 4年生の取組

250 年前からある「麻吉旅館」



麻屋吉兵衛が商売を始めたので、「麻吉旅館（あさきちりょかん）」という名前になりました。昔は料理店だったそうです。麻吉旅館は建物全体が木でできているので、とても珍しいです。登録有形文化財に指定されています。旅館の敷地には建物が6棟もあります。どの建物も中はとても太い木のはりで支えられています。建てかえるのに3億円かかるそうです。部屋の広さは100㎡ぐらいです。『東海道中ひざくりげ』の本の中にも『麻吉』が出てきます。急な斜面に立っていて京都の清水寺と同じ造りだそうです。

見どころたくさん「麻吉旅館」

建物の中には、骨とう品のお皿や、昔のお弁当箱、小判などが展示されてます。イギリスの外交官の書道作品もあります。有名人のサイン色紙もたくさん飾られています。建物が高いところに建っているのは「人間は高いところにいると気分があがるから」と旅館のオーナーさんは言ってみえました。従業員の人たちは、お客さんを悪い気分にはさせないように気をつけているので、同じお客さんが何回も来てくれることが嬉しいそうです。おすすめのメニューは、伊勢志摩の魚介類を使った料理です。1年に1000人くらいのお客さんが来ます。大人気の旅館です。



伊勢の宝物がいっぱい「伊勢古市参宮街道資料館」

「伊勢古市参宮街道資料館（いせふるいちさんぐうかいどうしりょうかん）」は平成7年に建てられました。資料館の前の道が「古市参宮街道」なので、その道の名前から伊勢古市参宮街道資料館となりました。1日に20人から30人ぐらいの人が来ます。昔のお店のものや昔の写真などいろいろな資料があります。一番古いものは、江戸中期の写真です。一番大きい資料は「萬金丹（まんきんたん）」という薬屋の看板です。大きさはおよそ2メートルもあります。



工夫もいっぱい「伊勢古市参宮街道資料館」



一番人気の資料は、昔の楽器やおもちゃ、歌舞伎の衣装や食器などです。展示で工夫していることは、資料の飾り方だそうです。見てほしいものを中心に置くことで、展示で何を伝えたいかを表していると館長さんが話してくれました。テーマを決めた特別展示では、回ってもらう流れを特に考えているそうです。お客さんが展示ケースのガラスでけがをしないように気をつけて展示されています。昔の伊勢のくらしがよく分かります。ぜひ、資料館に来てみてください。



すてきな絵がある「修道小学校 校長室」

校長室の宝物の絵は「神都鳥瞰図（しんとちょうかんず）」といいます。1934年（昭和9年）の3月に描かれた絵です。「神都」とは伊勢のことで、「鳥瞰図」は鳥の目線になって描いた絵のことです。横152cm、たて91cmの大きな絵です。絵は、伊勢市出身の橋本鳴泉（はしもとめいせん）が描きました。この絵は、高級品の絹に描かれています。絵の中の赤い線は電車が通る道で車も走っています。飛行場や伊勢市駅や宇治山田駅、渡し船も描かれています。令和5年の秋には「島根県立古代出雲歴史博物館」の企画展に貸し出していました。どうして90年も昔に、鳥の目線になって描けたのか、なぜこの絵が校長室にあるのかはいまだに疑問です。

お菓子の国「はんけい」

「はんけい」は、修道小学校の近くにある駄菓子屋さんです。今年(2024年)でお店を始めてから125年です。最初のころは、駄菓子屋さんの「はんけい」ではなくて、ハンコ屋さんでした。ハンコ屋さんを始めた人が「けいぞう」という名前の人で、ハンコ屋さんの「ハン」と、けいぞうさんの「けい」を合わせて「はんけい」という名前になったそうです。はんけいには、約150種類のお菓子があります。はんけいが閉まっている日は、ヒカキン（日・火・金）です。ぜひ行ってみてください！！



五十鈴ヶ丘のパン屋さん「ぼうがいっぽん」

「ぼうがいっぽん」は、平成5年(1993年)に建てられたパン屋さんです。オーナーさんは「安心安全でおいしいパンを作ること」を心がけているそうです。お店の名前は、絵描き歌の「棒が1本あったとさ」の出だしの歌詞から取られているそうです。人気メニューは「おいしい食パン」です。そのまま食べてもトーストにしてもおいしいです。みなさんぜひ行ってみてくださいね。



スワディシュト (おいしい)「フルバリ」

「フルバリ」は、2007年(平成19年)4月に開店しました。フルバリの名前は、ヒンディー語でフルは『花』、バリは『花壇』という意味から『花園』をイメージしてつけたそうです。『みんなが来て楽しい』お店にしたいとオーナーさんが話してくれました。人気のメニューは、チーズナンとハニーナンです。おすすめのカレーは野菜カレーとチキンカレーです。

1日100人程度、お客さんが来るそうです。辛さを選ぶことができ、甘いカレーと辛いカレーが好みに合わせて選べます。皆さんもぜひ食べに行ってください。



600 年前からある「桜木地蔵」



「桜木地蔵（さくらぎじぞう）」は室町時代からありました。室町時代に、田んぼのはしにあった三体の地蔵を、桜の大樹の根元にお祀りしたのが最初といわれています。昔、この辺りには水田があり、勢田川の源流の一つでもあったそうです。そのころはよく効く薬はなく、お医者さんも少なく家族の人が病気になると神様や仏様に病気が治るようにお願いしていました。江戸時代には、山田奉行所の大岡忠相（おおおか ただすけ）がお参りして江戸町奉行に昇進したことから出世地蔵と呼ばれるようになりました。平成8年ごろ、桜木地蔵を訪れていた大相撲の力士が横綱に昇進したことから出世地蔵の名をさらに高めることになりました。今もたくさんの方がお参りに来ます。



ダンスの神様「長峯神社」

「長峰神社（ながみねじんじゃ）」で最初に目につくのは境内にある神様を呼ぶためにある鈴です。神社は1870年（明治3年）に建てられたそうです。名前の由来は長い峰に建てられていることからで、天鈿女命（あめのうずめのみこと）が祀られています。芸能の神様といわれているのは、天岩戸にとじこもった天照大神（あまてらすおおみかみ）が、天鈿女命の踊りに心がひかれて出てきたという言い伝えからです。芸能人が参拝することもあるそうです。



寿司代表「あつむら」

修道地区の寿司屋といったら「あつむら」。創業 12 年目です。名前の由来は、大将の小学生の時のあだ名があつむらだったからだそうです。あつむらは桜木町にあります。人気メニューは、お昼のランチです。工夫していることは、魚を冷やすときに冷蔵庫を使わないようにして、氷で冷やすことです。氷で冷やすと魚が硬くなりにくいそうです。食材は基本的に三重県産を使い、三重県にないものは全国各地からとりよせているそうです。皆さんもぜひ食べに行ってみてください。



歴史を教えてくれる「隠岡遺跡」

2000 年前にヤマト姫（倭姫命）が丘に隠れた（亡くなった）ことから隠岡という小字(地名)になりました。そこから取って「隠岡遺跡（かくれがおかいせき）」という名前になりました。遺跡とは昔の人が残した営為（えいい＝人のいとなみ）の跡です。伊勢神宮も同じ年に伊勢に鎮座（ちんざ）したそうです。代表的な出土品は弥生時代の土器です。土器のかけらが見つかり、つなぎ合わせて復元し足りない所は石こうで補うそうです。訪問したときに、大工さんが行っている竪穴住居のわらを固定する体験をさせていただきました。遺跡には予約（市・文化政策課担当）でしか行けませんが、興味がある人は行ってみてください。



昔からの味「コンパス」



伊勢市楠部町にあるお好み焼き屋さん「コンパス」。1984年（昭和59年）にできました。40年続いていて昔からの味を受け継いでいます。お好み焼きの種類は8種類あります。大阪風、広島風があります。人気の



お好み焼きは、普通のお好み焼き、イカ、ときどき広島風です。約100年前に建てられた家でお店をやっています。かき氷の種類はセンジ、みぞれ、宇治金時があります。金時はあんこという意味です。

おいしいものがいっぱい「シルクロード」

「シルクロード」が建てられたのは、およそ39年前の昭和60年（1985年）です。すごく古くから建てられていてびっくりしました。お店の名前の由来はオーナーの「きぬみさん」の名前だそうです。きぬは「シルク」、そして「私の生きる道」というところから「ロー



ード」でシルクロードという名前になったそうです。お客さんは若い人からお年寄りまで来るといことです。お店に入った瞬間においしそうな香りがして食欲をそそります。人気メニューは、エビオムライスとパスタセットです。自信があるメニューはプリン、エビオムライス、パスタだそうです。



遊ぼう！「フォークフォーク」

「フォークフォーク」は結婚式場なのに、カフェもホテルも公園もあります。ほかにバスケットボールやバレーボール、子どもが集まるように、迷路やテニスもできます。2017年にできました。オーナーさんは、「どの年代の人も置いてけぼりにしない、年代を超えて集まれる場所にしたい。災害時に避難所としても使えるようにしたい。」と言っていました。いろんな人が集まる、わくわくするところでした。



いろいろとおいしい「中山キッチン」



「中山キッチン」にはいろいろな野菜や果物、お菓子もあります。たくさんの方が来てもらえるようにさまざまな工夫がされています。おすすめの商品は、手作り米粉パンとバナナジュースです。とてもおいしそうでした。手作りパンには、チョコパンや小豆米粉パンなどがあります。1日に約40人はお客さんが来るということでした。中山キッチンは、約76年間も続いています。マークは、「楽しく料理ができる食材を売っています」という意味だそうです。



本わらび粉を 100%使用している「古仁屋」



昔からわらび餅が好きだった店長さんが、大人になって京都で勉強し「古仁屋（こびとや）」を開いたそうです。ここは昔、伊勢神宮参拝の街道だったので、昔の茶屋をイメージして古仁屋を建てたそうです。名前の由来は、わらび餅が古くから食べられているので「古」を入れ、「仁」は店長さんの名前の「じん」からとったそうです。わらびもちの原料は山菜のわらびです。わらびは春に採ってきて、ねかせてからたたくと、デンプンを作ることができます。ロゴはワラビーという動物とわらびをしっぽにしています。三種のわらび餅が人気メニューです。



神宮の文化施設「神宮徴古館」

「神宮徴古館（じんぐうちょうこかん）」は、1909 年（明治 42 年）にできました。春には桜、秋には紅葉が美しいです。この博物館は、金、銀、銅で作られた宝物（ほうもつ）が多く展示してあります。式年遷宮で解体された御饌殿（みけどの）の『実物』を復元したものがあります。高倉山古墳で出土した遺物も展示されています。中には、お木曳車の模型、宇治橋の模型、神宮の模型もあります。鯉木は内宮に 10 本、外宮には 9 本あると書いてあります。国の重要文化財など約 13,000 点収蔵しているそうです。



千姫が祀ってある「寂照寺」

「寂照寺（じゃくしょうじ）」は1677年に寂照知鑑（じゃくしょうちかん）が建てた古いお寺です。名前の由来は、その苗字を取って寂照寺なのだそうです。寂照寺は中之町にあります。1年に約1000人の参拝者が来るそうです。中には大きな仏壇があり、そこは黄金で作られていて極楽の世界を表しています。寂照寺の正面の道（今の中之町）が栄

えていた時、街は「一生に一度だけでも伊勢神宮に行きたい!!」という人でいっぱいだったそうです。そんな時代、お金がなくて食料も買えない人が出てきた時に、月僊上人（げっせんしょうにん）が立ち上がりました。月僊は、寂照寺の八代目の住職（じゅうしょく）で、絵を描き、その絵を売って食料が買えない人にお金を寄付していたそうです。寂照寺には徳川家康の位牌（いはい）や、徳川家康の孫の千姫の位牌、今までの住職の位牌も大事に祀（まつ）ってあります。寂照寺はとても歴史のある温かい雰囲気のお寺です。



みんな優しい 修道地区の方々

今回の調べ学習では、たくさんの人にお世話になりました。どの見学先でも優しく親切に話をいただきました。ありがとうございました。この優しい人たちこそ修道地区の宝物です。20年先もずっと温かい修道地区であるように大切にしていきたいです。

